1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100375		
法人名	社会福祉法人 紀伊福祉会		
事業所名(ユニット名)	グループホームてまりの里		
所在地	和歌山市府中20-1		
自己評価作成日	令和2年10月25日	評価結果市町村受理日	令和2年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=3090100375-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和2年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームてまりの里は高齢者の尊厳保持を第一に考え「居心地良く、自分らしく、生き生き生きる」を処遇の基本方針とし自分がしたい時に、したい事が出来る様に、ADL改善に取り組み科学的介護を実施しています。理論的で分析的態度で科学的介護に取り組んでいますが、一步前進させたく今年から全職員が基礎生理学を深く学んでいます。科学的介護の基本ケア(水分1日1500cc摂取し、常食を食べ、自然排便をし、しっかり運動「歩行」する)は今では当然のことと受け止められ、運動はご利用者様の日課となっています。又、ユマニチュードの介護手法に共鳴し、ご利用者様に対して思いやりのある、やさしい心で、日々介護に当たっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所にとって、科学的介護とユマニチュードの介護手法は、運営上の両輪であると言える。すべての職員は勉強会等に参加することで理解を深め、自分のものとして日々実践しながら、入居者の有用感・達成感のある「自分らしい生活」を支えている。健康管理や医療面では、かかりつけ医及び看護師との密な連携により適切な対応がなされており、緊急時にも24時間対応が可能な体制にある。従来は、地域の社会資源との活発な協働が行われていたことから、事態の推移を見定めながら、復活させたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有し、かつグループホームてまりの里の独自の目的も合わせて実践につなげています。	法人の理念を土台にした事業所理念を、代表者を含めた職員間での検討を経て策定しているが、さらに実践に向けてより具体化した目的・処遇方針をも定めている。事業所内に掲示し会議等を通して周知を図っており、代表者・管理者及び職員はそれらを共有しながら、支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で地域に行く事は難しい状況ですが、ご家族や知人の方々が面会に来られまず検温、手指消毒、マスク、フェイスシールド等感染予防対策を万全にして玄関先で短時間面会されたりテラス越しにお会いになったり写真や動画をご覧になったり、お電話やお手紙をやり取りされます。	自己評価の記述のとおり、大きく制約された現況にあるが、通常は地域の小学生の支援や交流、ボランティアの受け入れ、自治会の催しへの参加等地域とのつきあいが活発になされている。事態の好転を待ち望むばかりである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	当事業所は実践を通じて積み上げている認知症の方の理解や支援の方法を、地域の方々に向けた研修会を行っています。また「てまりランド」を発刊したり事業所独自の写真集等で認知症の啓発に努め、ご家族や地域の方々に、ご理解頂き相談者には納得いくまで説明を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、コロナの感染予防に努めソーシャルディスタンスを守り短時間と決めて、感染対策を万全にして実施しています。地区の支所長様や包括支援センター川永の方々に来所頂き、ご利用者の現状報告、サービスの実践、認知症への取り組み状況について報告や話し合いを行い、そこでの意見や要望などを即サービスの向上に活かしています。	運営推進会議には、利用者及び家族等の参加もあり、事業所の活動状況等の報告に基づき意見交換を行いながら、サービス向上に繋げている。運営推進会議は、地域の情報をもとに災害対策等につき関係者相互の協力関係を築く場でもあることから、状況の良し悪しに拘らず2月に1回の開催を堅持している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報誌「てまりランド」を市町村に置いて頂いています。「運営推進会議には、地区の支所長、包括支援センター川永の方々に参加頂き、地域や市県政の情報やアドバイスを頂戴しています。日頃からも相談し地域行事に参加するなど、協力関係を築くように取り組んでいます。	現状では、専ら運営推進会議が行政の職員と話し合い、情報や意見を得る場となっている。代表者は市による他の福祉事業にも携わっており、そのこともまた行政との協力関係の強化に繋がっていると言える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	H30年4月から改めて身体拘束適正化委員会を立ち上げ3ヶ月に1回行うと同時に研修会を6ヶ月に1回行い身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については全職員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアを実践しています。スピーチロックやフェイスロックも身体拘束になることを正しく理解し、職員間でお互い注意しあっています。日中玄関や居室の施錠をしない事は当然の事ととらえています。	言葉や表情による行動の抑制は、ややもすると起きがちであることから、職員各自及び職員間での注意喚起を常に行いながら、ユマニチュードの手法の実践に努めている。日中は出入口の施錠はせず、利用者の行動を制止することはない。併設する事業所の職員の協力も得て、見守りに徹した対応である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルや高齢者虐待防止関連法を学び虐待防止を徹底している。職員間で見過ごされる事がないようにご利用者様への言動の1つ1つにも気配りしている。問題ありと感じた時は指摘しあい改善し処遇にあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の研修会に参加しています。パンフレット等を施設入口に置いてあります。必要にご利用者にはこの制度がある事を説明し制度が活用されるよう支援しています。以前1件の相談があり、ご利用されました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書をもとに、入居時に十分に説明を行い、ご利用者様とご家族様に納得して頂いた上で安心してサービスのご利用をして頂ける様に努めています。何か問題が起こった時などは、即話し合いの場を持ち迅速に対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の中で、ご家族様にはお電話等で、ご家族様にご利用者様の日頃の様子をお伝えし、ご家族様からご意見、ご要望をお伺いしています。コロナ感染対策を万全にして、短時間での運営推進会議の機会を利用し、ご参加頂くこともあります。その時のご意見、ご要望を運営に反映させている。	通常は、家族等による利用料の支払いは持参を原則とすることで訪問の機会を確保しており、利用者を交えての話し合いの中で意見・要望を聞き取っている。また玄関には意見箱を置き、それぞれの場で出された意見・要望を運営に反映させている。外部機関への意見・要望の表明については、文書で説明すると共に、事業所内に掲示することで周知を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議に代表者、管理者は常に参加し職員の意見提案を聞いている。会議だけでなく、何かあればその都度、その都度何時でも耳を傾ける様に努め、話し合いよりよい形で反映させ実践しています。	代表者及び管理者は、日頃から能動的なコミュニケーションを心がけており、職員の意見・提案を引き出しながら、利用者の日常の活動や職員の勤務体制等に反映させている。適度の運動を可能とする機器や排便補助用具等の購入は、代表者のいち早い決裁でなされ、科学的介護のスムーズな実践や職員の仕事の効率化に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、勤務時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めています。有休や公休も本人の希望を考慮しています。又、モチベーションを上げる環境の整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は外部の研修案内は回覧し、勤務時間に考慮し、研修はできる限り受けられる様に勤めています。又、希望があれば参加出来るように配慮しています。介護技術はその都度、その場で指導し、実践に生かしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はないが、外部研修時お互いの情報、意見交流を行っています。母体の施設との交流も時々行い、相方共、事業所の良い所を吸収し改善点は見直して、サービスの質の向上を図っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの契約に至る迄、ご本人やご家族の話をお伺いする機会を充分持ち、施設内の見学をして頂き、環境が変わっても以前と同じ様な生活をしていただける様に努めています。ご本人様が不安なく生活して頂ける様に信頼構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に、ご利用者様の今迄の暮らしや性格等を細かくお聞きし、ご希望の生活、要望を取り入れた生活を継続し、生活の状況を細かくお知らせしたり、ご本人様が生活に慣れるまで度々御来所して頂ける様にご家族にお願いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族から困っている事等を、しっかり聞き検討し、見極め、必要なサービスを提案する等適切な対応をしています。必要に応じて、他のサービスを紹介するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の得意とされる分野の事など、長年生きて来られた、人生の経験、先輩として、色々な事を教えて頂いたり、昔から慣れ親しんだ年間の行事など、皆様とスタッフが話し合い、一緒にグループホームの行事を作り、共に参加し支えあっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのつながりが強いほどご利用者の生きる力も強いとの思いから、外出行事等で、ご家族様に、ご協力いただき、ご利用者を一緒に支える仲間としてお願いしています。一緒にお出かけ、一緒にお買い物、一緒に遊ぶ等していただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中で、まだ、館内でのご面会は出来ませんが、コロナ感染対策を万全にして、玄関先で短時間でのご面会をして頂いています。又、馴染みのある方に葉書を出したり、お電話をしたりして関係継続の支援をさせていただいています。	現状は自己評価の記述のとおりであるが、事業所は馴染みの人や場との関係継続が利用者の日々の生活を支える上で不可欠であると考えており、家族等や知人による訪問、外出・外泊等の実現に向けての取り組みを強めている。定期的な事業所だよりの発行もまた関係継続の支援の一環である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに大きいテーブル4個とソファを置きご利用者が自由に座られ家事をされたり、リハビリをしたり、テレビをご覧になったり、ご利用者同士で談笑されたり和気あいあいと過ごされています。時々利用者間の中にスタッフも入りきっかけを作るような支援もしています。ささやかな誕生会も催しご利用者様方と一緒に祝いをしています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終末期をお迎えられたご家族様に対し、その後も、時折ご家族様をご来苑されることがあります。契約が終了しても今まで培われた関係は大切に、ご家族やご本人の経過もフォローし、相談や支援に努めています。以前に、ご利用者様の知人の方より介護サービスを受けたいとの連絡がありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にお一人おひとりの思いや暮らし方の希望をセンター方式を利用して把握に努めています。その後は会話の中で意向をくみ取るよう努力しています。ご本人主体をベースにしていますが、困難な時は関係者で話し合いを持ち少しでも希望に近づける様に配慮しています。	利用者一人ひとりの思いや意向の把握は、センター方式のシート利用で事足りるとは考えず、日頃の利用者の言動からの気づきやくみ取りを職員間で共有しながら、把握をさらに深めている。困難な場合は、本人の視点に立つての話し合いを続けており、職員による決めつけは厳に戒めるところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生活されていたときに使用していた馴染みの物を持って来ていただき、そのまま利用して頂いています。今までの経験をしてきた事柄を、これからの生活に生かしていただける様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常日頃から、お一人おひとりの食欲、顔色、活気などの状態把握や、排泄、水分量のチェック、入浴時、傷や皮膚の状態、必要であれば、バイタルチェック、異常があれば代表者や主治医に報告し指示を頂いています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画については個別に担当者をつけ、ケアプラン会議で家族のご希望を伺い代表者、本人、必要な関係者と話し合い、その中で出された意見やアイデアを検討しより現状にあったものを作成している。より現状に即したということで3カ月に1回見直しているが必要に応じて度々見直すようにしている。	週1回開かれるかかりつけ医・看護師との医療連絡会は、介護計画の作成についても大きな役割を果たしている。力の低下が著しい利用者については、3カ月に1回の見直しにはこだわらず、かかりつけ医・看護師等の意見・アイデアを活かして週毎に見直すことで機能の向上を図る場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の日々の様子や、ケアの実践結果、小さな気づきや工夫を個人の生活記録と医療面での記録に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院し、経鼻経管栄養になったため、退所余儀なくされた方へ他院へ訪問したり必要に応じて家族支援をおこなっている。体験利用も受け入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お一人、おひとりが心身の力をできるだけ発揮しながら安全でより豊かな暮らしを楽しめるよう、地域包括支援センターとの協働はもとより、ボランティア、地域のお店や理美容、病院、郵便局、銀行、花屋、警察、消防、また近くのサンサンセンター図書館などを把握し、これらの地域の人や現場の力を借りた取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	コロナ禍の中で、感染リスクを考慮して、かかりつけ医のご配慮で、通院せずに往診していただいています。急な状態の変化があれば随時の電話相談や緊急往診もしていただいています。1週間に1回主治医が来られ医療連絡会があり、主治医と事業所の関係を築いています。現在、看取りの方がいらっしゃるの、毎日往診して下さっています。	本人・家族等の希望により協力医療機関の複数の医師がかかりつけ医となっており、定期の往診が実施されている。かかりつけ医・看護師との医療連絡会の実施により、情報の共有は密である。他科受診を要する場合は、かかりつけ医の紹介状で情報を提供している。緊急時には事業所の看護師及び法人本部の看護師が即時に対応できる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回、月・木・土は担当の看護師が来て、ご利用者の様子変化等を見て先生に報告してくれ、適切なご指示を頂け、日々の変化があれば本体事業所の看護師が24時間体制のオンコール等で随時対応してくれ、ご利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入退院の時、病院からのご指示やアドバイスを受けたり退院後に事業所としてできることを病院に伝える等、病院関係者との情報交換に努め、病院関係者との関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービスご利用時に看取りに関しての伺い書を書いて頂き、重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、事業者で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し主治医の先生や関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。もう数件のターミナルケアを経験しました。現在、お一人の方のターミナルケアを実施しています。	重度化や終末期のあり方についての本人・家族等の意向は、契約時及び段階毎に文書で確認し、看取りの希望があれば、かかりつけ医・看護師等関係者と密に連携を取りながら支援している。職員は研修等を通して理解を深め意欲を涵養し、看取り介護指針に則って実践を重ねており、昨年度は2名の利用者を看取り、本年度も1名の利用者の看取り介護を実施中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時に備え、緊急連絡体制が整っています。全職員は応急手当や、緊急時の対応の訓練を定期的に勉強し実践力を身に付けており、緊急時には、即座に対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍の中でも感染対策を万全にして、年2回、ご利用者様と一緒に避難訓練を行っています。災害対策マニュアルに従い、安全に避難できる方法を全職員が身につけています。地域との協力体制も築けるようお願いします。	避難訓練は昼間又は夜間を想定しての実施である。地域の訓練には職員が参加している。運営推進会議での地域の方への協力依頼や、避難場所の提供等についての話し合いを足がかりに地域との協力体制を築きたいと考えている。災害時に必要な物品は1週間程度を備蓄しており、担当者の点検に遺漏はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員は、利用者様お1人おひとりの人格の尊重とプライバシーの重要性を認識しており、排泄の失敗や着替えなど、他者に知られない配慮や心配りをした声かけなどを行うようにしています。	呼称は姓により、同姓の場合は氏名を用いることとしている。利用者への言葉かけの際には自己決定ができるように働きかける等ユマニチュードの手法の実践に事欠かない。利用者の個人情報 は口外せず、文書等は鍵のかかる場所に保管する等責任ある取扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人様が自らの思いや希望を表したり、自己決定が出来るように声かけの時は「～ませんか?」「～はどうですか?」など、疑問符をつけて話しかけるように、本人に決定権を出して頂けるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは、職員側の都合でなく、ご利用者様の体調、気持ちや、個人のペースに合わせた支援を行っています。どのように過ごしたいかというご希望にそった支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ感染対策を万全にして、理美容の方が来所し、希望があればヘアカットを受けられ、その日の行事等に合わせ、おしゃれをするなどの支援をしています。朝はきちんと着替えが出来ているか、整容や爪切り等も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と一緒に、食べたいもの、作りたいものを話し合いながら献立を考え、コロナ禍の中で買い物にはご一緒出来ませんが、感染対策を万全にして調理はできるだけ多くの方に参加していただくようにしています。支援の必要な方には、さりげなく支援させていただき米とぎから盛りつけまで、食後は食器洗いを職員と一緒にいただいています。	数日分の献立を考えるが、食材の揃い具合によっては変えることもあり自宅での生活と同じであると言える。利用者一人ひとりが持てる力を発揮して一連の作業に参加する食事づくりは利用者が有用感・達成感を存分に味わえる格好の機会となっている。折々のおやつづくりもまた利用者の楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の栄養バランスを考えた食事や、水分摂取量が1日を通じてきちんと摂れているか、毎日個人別に水分摂取量チェック表を作って記入しています。1日1500cc以上摂取を目標にし、少ない方には水分をゼリー状にして召し上げて頂いています。自力摂取が困難な方に対しては、バランス飲料なども取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の方々の口腔内の汚れや臭いが生じないよう、又、病気予防の為毎日食後に一人ひとりの口腔状態や、ご本人の力に応じた口腔ケアを行い、清潔を保って頂くように努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	竹内先生のセオリーである、水分・常食・運動(歩行)自然排便の4つのケアを実践し、日中オムツ使用者が減り、夜間も必要に応じ、トイレへの誘導等を行い、オムツをしない取り組みをしている。	科学的介護の徹底的な実践が功を奏し、終末期の利用者以外のおむつ使用はない。パッドやリハビリパンツを使用する利用者についても、尿もれへの対応が主であることから、トイレへの誘導により恒常的な使用を防ぐと共に、常に見直しを行いながら、あくまでも排泄の自立を見据えての支援を続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々飲食物の工夫をし起床時の冷水と1日1500cc以上の水分摂取と毎日適度な運動(歩行、イーजूワーク、ボディウエーブ)腹部の「の」の字書き体操をし便秘予防に取り組んでいます。ほとんどお通じの薬は使わなくても自然排便できるようになりました。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ケアプランで大まかな計画作成しているが一人ひとりの希望やタイミングを図り入浴していただいている。又、季節により、ゆず風呂、ミカン風呂、菖蒲湯等も楽しんで頂いています。冬の寒い時や、夏の暑い日等は入浴剤を入れて気持ち良く入って頂いています。	職員は常に利用者との間に良好な信頼関係を築くことに努めており、利用者の入浴への抵抗や拒否が見られないのは、関係の深まりによるものと考えられることができる。週2回の入浴を目安に、利用者は季節の移ろいを感じながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後パジャマに着替えられた後、居室で過ごされる方もいらっしゃるし、居間に出て来られソファに座られテレビをご覧になったり、ご利用者様同士で談笑されたり、就寝前の団欒を楽しまれるなどの環境を提供しています。不眠の方にはホットミルクをお出ししたり、暫く話し相手をさせて頂くなど、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について全職員が理解しており、服薬の管理、支援と症状の変化の確認に努めています。服薬介助は慎重に行い、確実に服用して頂くように、職員間で声掛けし合い症状の変化、確認、報告に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野を生かし、食事作りに取り組みれたり、書道、クロスワードや絵描きをされたり、歌を歌われたり、お一人お一人の生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみ事、気分転換等の支援を行い、生きる張り合いや喜びを感じられる様に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中で、日常的な外出は出来ませんが、感染対策を万全にした上で必要な外出であればして頂いています。	従来は、事業所は外出を利用者・職員双方にとつての、ストレスを分散し五感刺激を得る貴重な機会と位置づけ、屋外での日光浴や事業所周辺の散歩等は日常的に行っている。買い物やドライブに出かけることもある。また利用者の希望が普段は行けないような場所であれば、行事に組み入れ、家族等の協力も得て出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さをりかいているが、コロナ禍の中で、現在は買い物、お金の支払い等の機会がありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人に年賀状や暑中見舞い状も、ご利用者の希望により書かれています。遠方のご家族からは定期的にお手紙が送られてきたり、返信のお手紙も書かれています。「息子さんや娘さんの声が聞きたい、話したい」と言う方には、電話をかけてお話をしして頂けるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ感染対策として、低周波オゾン発生装置の設置や、次亜塩素酸ナトリウム消毒液を使った掃除、手指消毒、検温も毎日実施しています。換気は毎朝必ず行い、エアコンの温度調整、空気の乾燥、湿度には十分気をつけています。居間には季節の物を置く等の気配りをしています。ご利用者様にとって不快な混乱を招くような刺激がないよう配慮しています。又、居間にメダカを飼い、皆で育てています。	リビングや廊下には、テーブルやソファが適度に配置されており、利用者は寛いで過ごすことができる。事業所の庭で育てた草花や壁の飾り付けが季節感を醸し出し、新聞や雑誌に見入ったり、洗濯物たたみに勤む利用者の姿は生活感そのものである。またリビングや廊下は、機器を用いての、または自力で歩行する等でのリハビリの場でもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人が居心地がよく暮らして頂ける様、時にはスタッフがご利用者様の間を取り持ったりつなげたりしながら、良い関係を保ち、居心地がよいと思えるような居場所の工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、ご利用者様とご家族様と相談しながら使い慣れた馴染みの物や好みのものを活かしてご本人が居心地よく生活できるよう工夫していただいています。家族写真や思い出の深いものを飾って頂き、ご自分の家と変わらないような環境にしています。	居室内に事業所が備えるのはベッドのみであり、他の備品は本人・家族等が希望する物品の持ち込みによっている。それらの物は自己管理が原則であり、まさに自宅での生活の延長と言える。居室は内側からの施錠もでき、職員が訪れる場合はノックをし声をかける等プライバシーの保護にも十分に配慮がなされ、利用者が安心して、ゆったりと自分らしく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送れるように、ご自分のものはご自分で管理していただき、出来ないことはスタッフがご本人に悟られないようにさりげなく支援するようにしています。お一人おひとりの潜在能力を引き出しながら安全で自立した生活が送れるように工夫しています。		